

平成20年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」結果のまとめ

1 実施目的	生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、今後の教育行政及び各学校における学習指導の改善に役立てるために実施
2 実施調査	1年生：国語，数学，英語，質問紙調査 2年生：質問紙調査
3 実施対象	県内の公立高校1年生 約15,300人 県内の公立高校2年生 約15,000人
4 実施期間	平成20年10月14日（火）から10月20日（月）

5 1学年教科別学力状況調査結果の主な特徴			
教科	分析結果	正答率 (昨年度)	正答率が上昇した学校の主な取組
国語	全体的な力は昨年度と同程度，論理的に読み解く力が不足 ・基礎的・基本的レベルのものは良好。 ・論理の展開をたどり，要旨を的確にとらえる力を問う問題の正答率は低い。	52.9 (53.1)	「学び直し」等，導入期に中学校段階の内容を復習し，基礎学力を定着させる取組 「学習記録簿」の活用，「平日及び週末の宿題や小テスト」等の家庭学習の習慣付けを徹底する取組
	基礎的・基本的な力は昨年と同程度，応用力・活用力が不足 ・基本的な計算や公式・定理を利用する問題に加え，応用力・活用力を見る問題を導入。	54.4 (61.3)	
数学	・文章題から式を立てることやグラフから必要な情報を読み取る問題の正答率が低い。	英検3級 レベル 以上 42.8% (35.4%)	「朝学習」「朝読書」や「放課後の学習会」等の，学校での学習時間を確保する取組
英語	基礎・基本レベル以上の生徒の割合が増加 ・日常会話の初歩的な語彙・熟語の正答率が高い。 ・文の前後関係から判断して語彙・熟語を選択したり，応用的な設問では正答率が低い。		生徒一人ひとりの理解と学ぶ意欲を重視した授業改善の取組

6 1学年・2学年意識調査結果の主な特徴		
学年	分析結果（具体的な数値は7ページ以降）	学校をあげての活動や取組
1学年	大学進学希望者が増加。「授業が理解できる」が増加。 家庭学習の時間は全体的に増加。 家庭学習で「集中できない」ことが悩み。原因は、「テレビやビデオ」「電話やメール」「ゲームやパソコン」。 正答率の高い生徒は，毎日一定の学習時間を確保。宿題や小テストで学習習慣を確立している。	「分かる授業」，「考える授業」を目標とした組織的な授業改善への取組 ・県のオンデマンド事業等の活用
2学年	大学進学希望者が増加。「授業が理解できる」が増加。 家庭学習の時間は昨年よりも増加だが1年次より減少。 家庭学習での悩みは「集中できない」。原因の1位は，「テレビやビデオ」。 朝食をとる習慣は1年次で確立している。	家庭学習時間確保のための家庭との連携。 進路希望の選択や学習での悩みに対する面談指導の充実

【考察】

高校入学後半年経過しての1年生の学力状況については，数学・国語における基礎的・基本的な力は上昇または同程度であるが，読み取ったことをもとに考える力，図やグラフの性質を活用して思考する力が不足している。英語の基礎学力は大きく上昇している。

1・2年とも，「家庭学習時間」・「授業を理解している」割合が増加しているものの，1年次よりも2年次で学習していない割合が増加。

学校が学力・学習状況調査を活用し，組織的に授業改善等に取り組んだ結果，成果が上がっているケースが多く，県の事業であるオンデマンド事業，地域発信アクション校の活用により，組織的に授業改善に取り組む高校が増加。

平成20年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」 結果の概要

調査の概要等

【第1学年】

(1) 生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、今後の教育行政及び各学校における学習指導の改善に役立てるために実施

(2) 公立(県立・石巻市立)高等学校の86校162学科の1年生、県内の約15,300名を対象に、平成20年10月14日(火)から10月20日(月)までの間、各学校で実施
学力状況調査

〔調査実施教科〕

・国語、数学、英語の3教科の学力状況調査

(ただし、数学は各学校の履修に応じて問題を選択して、定時制課程は教科数を減じて実施できる。)

(定時制課程12校中8校で教科数を減じた)

・国語、数学の作問に当たっては、学習指導要領の目標・内容に照らし、平均正答率を60%と設定して作成

・英語の作問に当たっては、「宮城県版英語検定」(テストB,テストC,テストDの3種類から学校の希望レベルに応じて1つ選択)を日本英語検定協会と共同作成

〔調査実施人数〕

国語 14,339名

数学 14,256名

英語(宮城県版英語検定)

14,340名

(テストB 3,160名
テストC 7,565名
テストD 3,615名)

質問紙調査

〔調査実施教科〕

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査 14,365名

【第2学年】

(1) 生徒の学習状況及び進路意識等を調査分析し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てるために実施。

(2) 公立(県立・石巻市立)高等学校の87校183学科の2年生、県内の約15,000名を対象に、平成20年10月14日(火)から10月20日(月)までの間、各学校で実施

質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査 13,945名

調査結果の概要と分析

1 1学年学力状況調査の教科別結果

国語

正答率は、52.9% (昨年53.1%)

○ 全体的な力は昨年と同程度、論理的に読み解く力が不足

言語事項に関する設問のうち、日常よく用いる基礎的・基本的レベルのものについては概ね良好。同音異義語や使用頻度の低い言葉、手紙の形式、論理の展開をたどり要旨を的確にとらえる力を問う問題の正答率が低い。古文の正答率は昨年より若干上昇したものの、まだ不十分。

数学

正答率は、54.4% (昨年61.3%)

○ 基礎・基本的な力は昨年度と同程度、応用力・活用力が不足

昨年度と同じ内容の基礎的・基本的な設問で比較すると、正答率が±3ポイント内の差で、ほぼ同等と判断できるが、複数の文字を含む因数分解や文章を読んで式を立てる問題及びグラフを活用して解く問題、複数の図形の性質を総合的に活用する問題の正答率は低かった。

英語

正答率は、テストB 42.1% (昨年43.5%)

テストC 50.7% (昨年47.4%)

テストD 47.5% (昨年51.8%)

テストB：出題レベルは英検2級～3級程度。英検準1級から5級までの力を測定できる。

テストC：出題レベルは英検準2級～4級程度。英検2級から5級までの力を測定できる。

テストD：出題レベルは英検3級～5級程度。英検準2級から5級までの力を測定できる。

○ テストCの正答率は大きく上昇、3級レベル以上は42.8%に増加

テストB、C、D全体の、表現力（英作文）及び文法・語法・慣用表現の正答率は、昨年に続き40.0%を超えているが、定着はまだ十分とはいえない。また、受験者ごとのレベル判定については、一つの目安としている3級レベル以上の生徒の割合が、昨年度より7.4ポイント増加し42.8%であった。

図1 国語・数学の正答率の推移

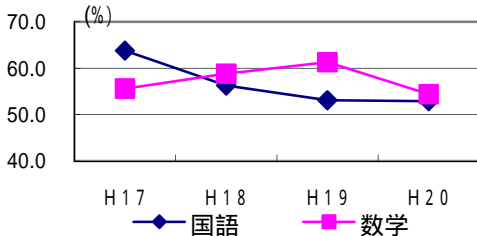
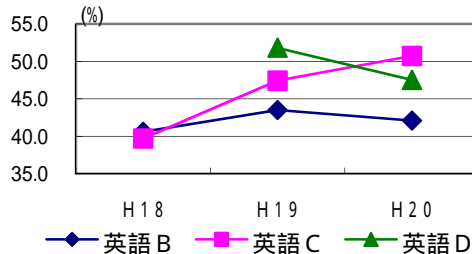


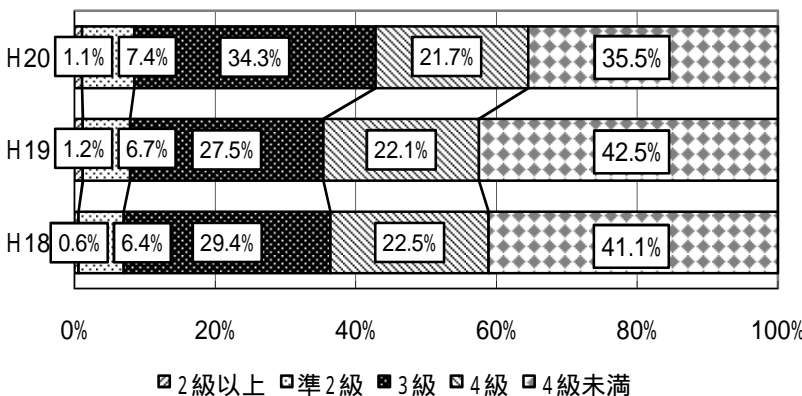
図2 英語の正答率の推移



< 英語の級レベル分布状況 >

	2級レベル以上	準2級レベル	3級レベル	4級レベル	4級レベル未満
H20	1.1%	7.4%	34.3%	21.7%	35.5%
H19	1.2%	6.7%	27.5%	22.1%	42.5%
H18	0.6%	6.4%	29.4%	22.5%	41.1%

図3 英語級レベルの割合の推移



注) レベルと中・高の学習との関連(目安)

2級 ... 高校卒業程度

準2級 ... 高校中級(2年生)程度

3級 ... 中学校卒業程度

4級 ... 中学校中級(2年生)程度

2 1 学年学力状況調査の結果分析と改善の方向

国語

分析と課題

(…相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

平易な漢字の読み書きについては、概ね理解できている。

同音異義語，慣用句，手紙の形式についての理解が不十分である。

論理的な文章に用いられる用語の理解が不足している。

⇒ **課題 1：社会人として必要な言語能力の基礎，表現力や読解力の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能が十分身につけていない。**

文章を限られた狭い範囲で読み取れることは概ねできている。

論理的な文章について，論理の展開をたどり要旨を的確にとらえる力，読み取った内容をもとに発展的に考える力が不足している。

文学的な文章について，心情の変化を文脈に即して理解する力が不足している。

⇒ **課題 2：文章の全体像をおさえた読み方や文章の特徴に応じた読み方を身に付けさせる指導，また読み取ったことをもとに考えさせる指導が不十分である。**

基礎的な古語や文法等，古文を読むための知識・技能が十分身につけていない。

古典を読むことに不慣れで，展開に即して内容を正しく読み取る力が不足している。

⇒ **課題 3：古典に親しませ，その現代的な価値やおもしろさに気付かせるような指導の工夫が不足している。**



改善の方向

基礎的・基本的な言語能力を確実に身に付けさせるために，話す・聞く・書く・読む活動と結びつけた指導や社会生活全般を意識した指導を工夫する。

・漢字や語彙の指導は，単純な反復練習にならないよう，読む・書く活動とも関連付け，辞書を活用し意味を確認させたり語例や文例を考えさせたりする。

・言葉遣いや手紙等について，相手や場面を具体的に想定した話す・書く活動を行う。

文章の全体像をおさえた読み方や文章の特徴に応じた読み方を身に付けさせ，読み取ったことをもとに考える力を養うために，発問や指導法を工夫する。

・評論文を構成メモや構造図に整理し要約する，小説の人物，情景，展開，表現の特徴を整理する等，書いてまとめ，読みのポイントを確認できるワークシートを工夫する。

・文章を読み比べ，論理の展開，表現の特徴や筆者の考え等について考察させる。

・表現の意図や効果などを考えさせる発問や，文章中から複数の要素をまとめ考察させる発問を工夫する。

・生徒同士が意見を交流させ考えを深め合うペアやグループでの話し合いを設定するとともに，発表・発言に際しては常に根拠を明確にさせる。

古典への興味・関心を高めるために，教材や学習活動を工夫する。

・古典に関する解説文，小説，随筆，評論等も広く取り上げ，紹介したり読ませたりする。

・音読，朗読によって古典の文体やリズム感を味わわせたり，名文を暗唱させたりする。

・身近に生きる古典事項を調べたり，古典と現代の言葉や語法を比較して調べたりさせる。

語彙力，言語感覚，読解力，表現力等，国語力を総合的に育成するために，幅広く読書させる。

・授業教材から発展し，同テーマを別の視点で書いた文章と読み比べたり，同著者の他の作品へと読み広げたりさせる。

・ブックトーク，ブックレビュー等の読書活動・読書指導を，学校図書館も活用しながら計画的に授業に組み込み，読書意欲を喚起する。

国語に対する生徒の学習意欲を一層高め，これからの時代に求められる論理的な思考力や表現力を育成するために，教材や学習活動を工夫する。

・読むことの指導過程に，説明，発表，討論，ディベート等の話す・聞く活動や，記録，要約，リライト，鑑賞，批評，論説等の書く活動も取り入れる。

・新聞，雑誌などの記事を収集し，事実と意見をまとめたり，比較・分析したりさせる。

・図表など文章以外の資料を分析し，根拠に基づき自分の考えをまとめて書かせる。

数学

分析と課題

(…相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

基礎・基本を問う問題については、正答率が高く、その指導が充実してきている。

複数の文字を扱う問題では1つの文に着目して整理することのよさや、図形が平行移動や対称移動によってどのように変化するかを理解しようとする姿勢が身に付いていない。

⇒ **課題1：数学を学ぶ楽しさや学ぶ意欲を向上させる指導の工夫が不足している。**

公式を用いて答えを求めることは比較的身に付いている。

公式が成り立つ理由を考える過程や、その過程を応用して解く問題の正答率が低い。

文字の値を変化させてグラフの位置を考察し、その変化にともない最大・最小となる場合を論理的に分析する力が不足している。

⇒ **課題2：公式や定理がなぜ成り立つのかを考えることや、文字を含む問題で、文字に具体的な値を代入し、変化を調べていくなどの数学的活動を通して論理的に思考させる機会が少ない。**

基本的な計算の力、簡単な方程式・不等式の解法など、正しい式変形を確実に行えば必然的に正答が得られるような問題の正答率が高い。

求める二次関数が通る3点の座標をグラフから読み取り解く問題は、3点の座標を与えて解く場合より正答率が20ポイント下降した。

問題文から式を立てる段階での誤りが多く、問題文が長い設問・文章が複雑である設問・教科書であり見慣れていない表現等で聞かれると正答率が急激に下がる。

⇒ **課題3：数学の用語や記号を用いて書かれた文章を、式やグラフ・図を用いて表現することや、式やグラフ・図から必要な情報を読み取り、それを活用する力が不足している。**



改善の方向

数学を学ぶ意欲を向上させるために、数学を学習する楽しさや意義、数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

- ・ 日常生活で体験する事柄を数学化するなど、現実の生活を反映した問題を多く扱い、生徒がその内容の必要性を感じられるような授業展開を考える。
- ・ 生徒が興味や関心を持つことができる内容をできるだけ多く扱う。

論理的に思考する力を育成するために、思考力を互いに高め合う指導を工夫する。

- ・ 授業中の発問を工夫し、生徒に気付かせたり、生徒のつまずきを生かす視点をもつ。
- ・ 少ない例からすぐに一般化するのではなく、公式や定理を導く過程を具体的な場合で振り返る。
- ・ 問題の解法が公式や定理を導く過程と一致しているものを扱い、公式や定理が役に立つことに気付かせる指導を工夫する。
- ・ 発表や検討（練り合い）などの様々な数学的活動を授業に取り入れて、自分の考えを論理的に思考させる機会を設定する。

論理的に表現する力を育成するために、用語・記号を丁寧に説明するだけでなく、数学的な表現に慣れさせる工夫をする。

- ・ 数学で用いられる用語や記号の指導を工夫し、事象を自分の言葉で表現させ、その表現をさらに数学的な表現に発展させていく工夫をする。

数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを理解し処理するために、グラフや図を活用しながら、常に具体化させて思考させることを重視する。

- ・ ICTを活用するなどして、文字を含む式で与えられた図形やグラフが、文字の値の変化にともなってどのように変化していくかを視覚的にとらえさせたりするなど、変化や動きを実感させる様々な指導を工夫する。
- ・ 与えられた条件式を、式変形だけで思考させず、グラフや表を利用して変化の様子や成り立つ関係を予想させる、また、図形を用いて関係を表現し、位置関係や性質理解することによって状況を把握していくなど、様々な方法を用いて思考させる工夫をする。

英語（テストCを中心に）

分析と課題

（・・・相当数の生徒ができています。・・・課題がある。）

授業でよく使われる日常会話の初歩的な語彙・熟語は理解できている。
文の前後関係や会話のやりとりから判断して語彙・熟語を選択したり文法事項を理解した上で解答するといったやや複雑な設問になると正答率が低い。

⇒ 課題1：語彙力及び文法の理解が不足している。

基本的な定型表現はある程度理解し活用できている。
単語だけでなく熟語やイディオムなど連語が含まれやや複雑な設問になると、正しく英文を構成することが困難になる傾向がある。

⇒ 課題2：連語を含んだ表現の英作文が課題。

基本的な問いかけの解答状況を見ると、大意を把握する力は身に付いている。
表現形態を変えた文章になると的確にとらえられないため、意味を正しく理解する力が不十分である。

⇒ 課題3：バランスのとれた読解力（速読と精読）が不足している。

リスニングにおける対話とまとまりのある英文を聞いてその内容に答える設問のうち、基本的な問いかけ等の内容が分かりやすいものはよく理解できている。
内容がやや複雑になると、質問文の疑問詞を正しく聞き取れず、単純に会話中に出てきた語句を選択する傾向があり、単語レベルでは理解できるが内容の理解までは到達できていない。

⇒ 課題4：単語レベルでの聞き取りはある程度できるが、まとまった内容を理解する力が不足している。

改善の方向

生徒一人ひとりが英語を学ぶ意欲を向上させるために、英語学習の目標を持ち、生徒の興味・関心と習熟の状況に見合った段階的指導の充実を図る。

高校導入期に中学校英語の総復習をするなど、中学校での指導内容との連結に配慮する。
生徒の興味・関心を持続させるために、身近な話題を取り上げるなどの工夫をする。

英語の授業を英語で行う割合を増やすように努める。

語彙力向上のために、授業の中に語彙学習の機会を計画的に組み込み、語彙の効果的学習方法を指導する。

・単語小テストを継続的に実施する。 ・辞書を活用する。

・文脈から意味を推測する方法や接頭辞・接尾辞、派生語などを指導する。

文法を定着させるために、文法の基礎的事項について繰り返し学習を行う機会をつくる。

・宿題等を活用する。 ・ALTとのTT等を利用する。

表現力を育成するために、授業の中で「書くこと」の時間を確保する。

・英語における「読むこと」に関連付けた「書くこと」の活動として内容を要約させる。

・オーラル・コミュニケーションでは、「聞くこと」及び「話すこと」の指導の効果を高めるために、「書くこと」とも関連付けた活動を行う。

・単語や熟語・イディオムなど連語が含まれた表現を用いた「書くこと」の活動を行う。

・重要構文が含まれる例文を定着させるため、簡単なテーマをもとに表現させる。

読む力を養うために、文章の様々な読解方法を活用する。

・概略を把握するためと必要な情報を選び出すための、速読を目標とした読解指導

・段落構成を意識したパラグラフ・リーディングの指導

・英文の内容を深く詳細に分析しながら読むための精読指導

・背景知識を活用したりQ & Aなどの内容理解を取り入れる。

聞く力を養うために、英語を聞かせる機会を多く設定する。

・教師が授業において英語を使用する割合を増やす。

・ALTとのTTにおいて、生きた英語に触れさせる。

・ポイントやヒントを随時与えて、目的を持ったリスニングを多く経験させる。

・まとまった文章をメモをとりながら聞き取る訓練をしばしば行う。

・ディクテーションやシャドーイングも適宜導入する。

3 1学年意識調査の結果と分析状況

過去の1年生との比較

(「H17全国高3」は全国の高3のデータで、文部科学省実施の平成17年度高等学校教育課程実施状況調査結果による。また、回答率において「無回答」の割合は省略。)

(1) 「現在最も強く希望している進路は」

大学進学希望者が増加傾向

	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定
H20	44.3%	3.6%	15.8%	19.4%	2.0%	13.9%
H19	43.1%	3.3%	16.6%	20.9%	2.0%	13.2%
H18	41.6%	3.6%	17.8%	20.3%	1.8%	13.9%
H17	41.9%	4.0%	18.3%	19.8%	2.1%	13.1%
H17全国高3	52.5%	6.7%	19.4%	19.2%	1.8%	0.4%

<分析> 大学進学希望者が昨年度より1.2ポイント増加。逆に専門学校希望者が0.8ポイント、就職希望者が1.5ポイント減少している。

図4 進路希望別の割合の推移

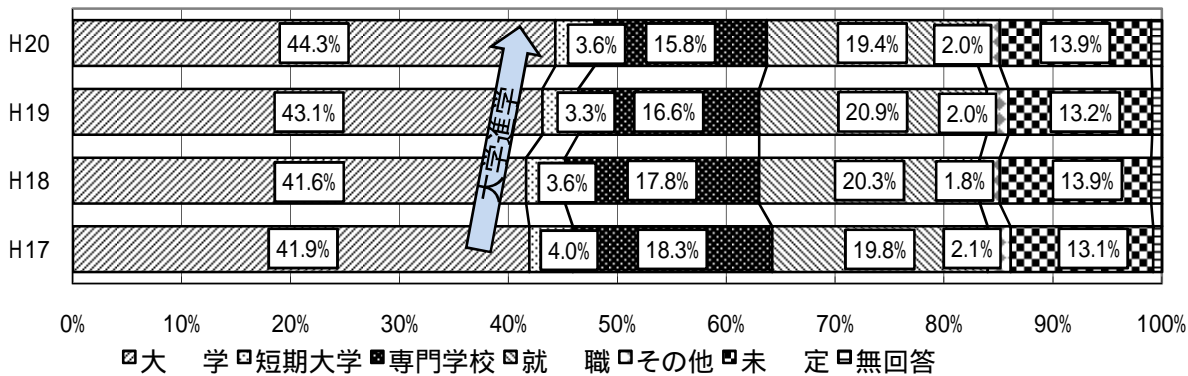
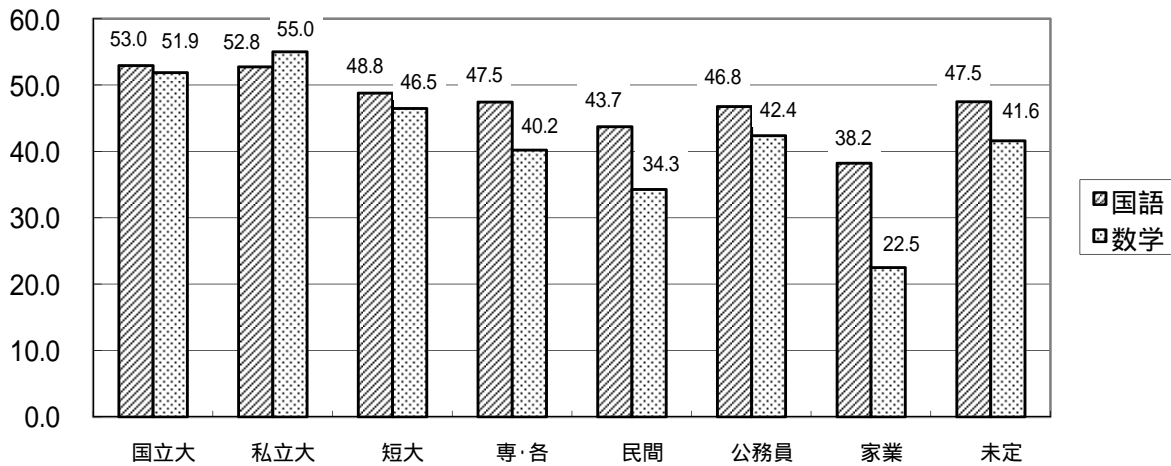


図5 進路希望別の国語・数学の正答率



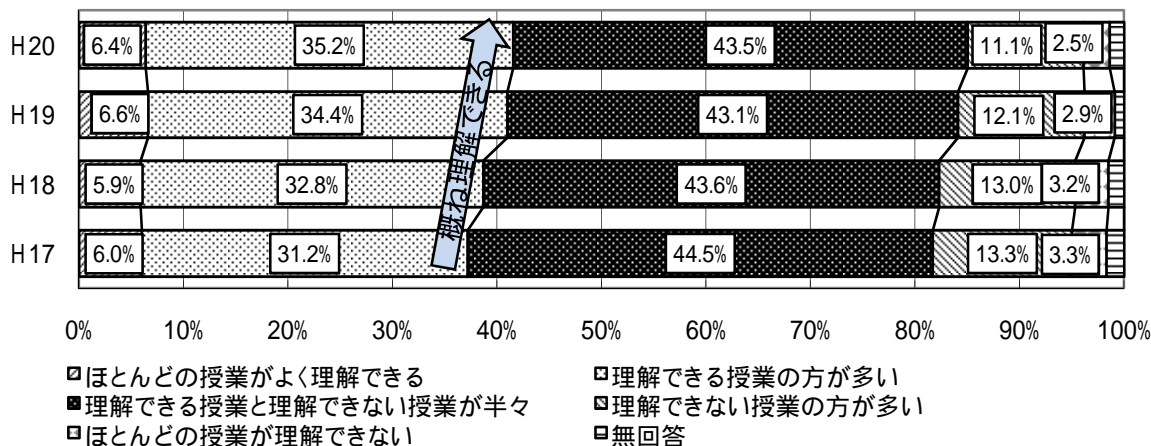
(2) 「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が増加

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H20	6.4%	35.2%	43.5%	11.1%	2.5%
H19	6.6%	34.4%	43.1%	12.1%	2.9%
H18	5.9%	32.8%	43.6%	13.0%	3.2%
H17	6.0%	31.2%	44.5%	13.3%	3.3%
H17全国高3	4.3%	37.0%	39.9%	14.2%	3.6%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が41.6%で昨年度より0.6ポイント増加。

図6 授業理解度の割合の推移



(3) 「受けたい授業はどんな授業か」

「分かる授業」「興味関心がもてる授業」を期待

	基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業	発展的な内容まで教えてくれる授業	興味や関心がもてる授業	進路希望達成につながる授業	資格取得につながる授業
H20	35.1%	6.6%	39.0%	12.9%	5.3%
H19	36.5%	6.5%	38.2%	13.1%	4.8%
H18	35.6%	6.5%	38.5%	12.7%	5.5%
H17	35.1%	6.1%	39.8%	12.5%	5.9%

<分析> 受けたい授業としては、1位「興味関心がもてる授業」(39.0%)、2位「基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業」(35.1%)。

(4) 「平日の学習時間」

学習時間は全体的に増加傾向、2～3時間集中した学習が効果的

平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、家庭学習(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
H20	0.3%	0.5%	2.3%	10.5%	24.2%	17.2%	11.9%	32.4%
H19	0.3%	0.4%	2.1%	10.3%	23.5%	16.2%	13.1%	33.3%
H18	0.2%	0.4%	2.1%	9.8%	22.6%	17.0%	12.7%	33.9%
H17	0.3%	0.5%	2.5%	10.4%	21.0%	15.7%	12.6%	36.7%
H17全国高3		23.9%		10.8%	9.8%	7.6%	8.2%	39.3%

<分析> 平日の学習時間は昨年度よりも「2時間以上」が0.5ポイント増加、「30分未満」が2.1ポイント減少。

図7 家庭学習時間の割合の推移

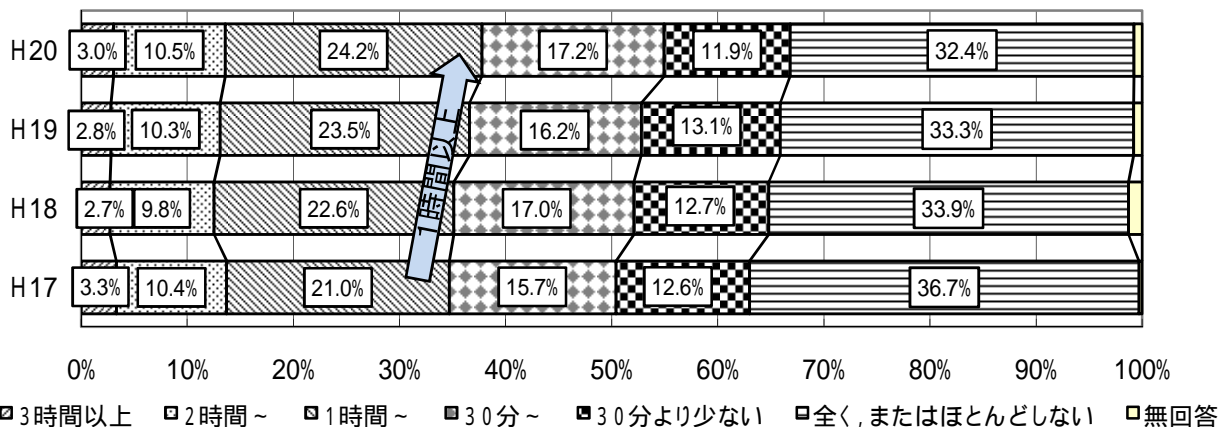
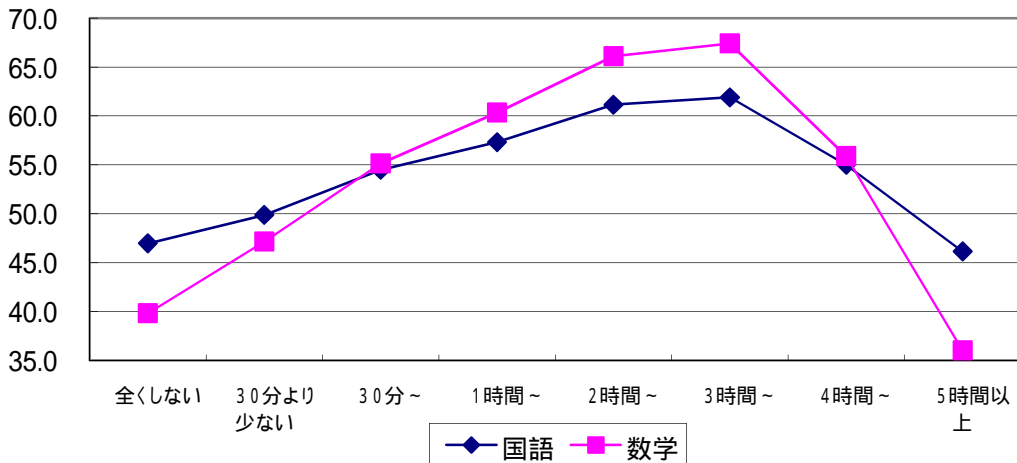


図8 家庭学習時間と国語・数学の正答率との関係



(5) 「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒が増加傾向

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題 があるとき	宿題・課題 や考査前	塾・予備校がある 時や家庭教師 がくるとき	気が向いたとき	ほとんど しない	その他
H20	15.8%	4.4%	6.6%	15.3%	5.5%	24.8%	1.5%	13.7%	10.4%	1.2%
H19	14.1%	4.5%	6.8%	7.2%	4.4%	36.0%	1.5%	13.3%	10.5%	1.0%
H18	13.0%	4.5%	6.0%	7.6%	5.1%	36.1%	1.6%	13.3%	10.8%	1.1%
H17	12.8%	4.3%	6.6%	8.1%	4.4%	34.8%	1.8%	13.7%	12.0%	1.0%

<分析> 「ほぼ毎日学習している」は昨年度より1.7ポイント増加。

(6) 「学校での宿題・課題、小テストの割合」

宿題・課題、小テストが家庭学習習慣に影響

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

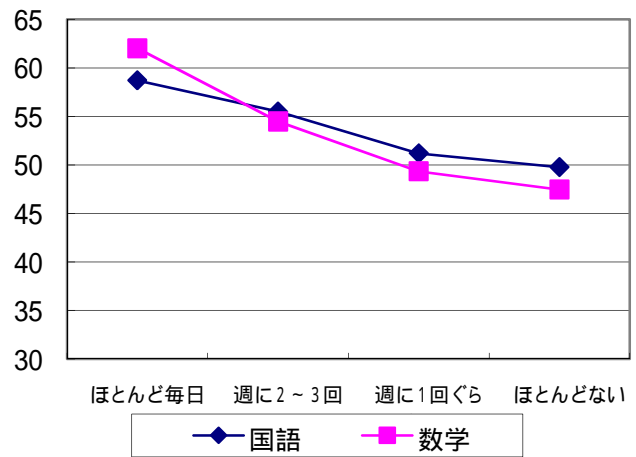
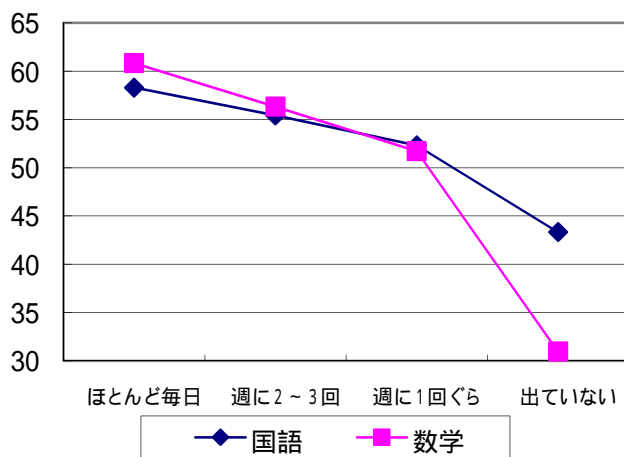
	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回ぐら	ほとんど出 ていない
H20	15.4%	33.5%	36.7%	13.6%
H19	14.9%	36.2%	31.1%	16.5%

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回 ぐら	ほとんどない
H20	11.1%	31.1%	32.6%	24.3%

H20に新設した質問

図9 宿題・課題の割合と国語・数学の正答率との関係

図10 小テストの割合と国語・数学の正答率との関係



(7) 「家庭学習をする上で悩んでいること」

「部活動との両立」は減少、「集中できない」が増加傾向

	方法が分 からない	集中できない	計画が長続 きしない	部活動と の両立	成績が 伸びない	その他	特になし
H20	14.4%	26.4%	14.5%	18.6%	6.6%	3.7%	14.8%
H19	13.7%	25.2%	14.5%	21.2%	5.9%	3.5%	15.0%
H18	14.2%	25.3%	14.2%	21.1%	5.6%	3.6%	14.1%
H17	15.3%	26.0%	13.9%	20.9%	5.2%	3.5%	14.2%

<分析> 学習上の悩みは「集中できない」が最も多い。「部活動との両立」は2.6ポイント減少。

(8) 「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」 「電話やメール」は減少、ゲーム・パソコンは増加傾向

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやパソコン	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H20	6.3%	24.3%	12.1%	19.7%	3.5%	16.4%	3.9%	1.4%	11.1%
H19	5.5%	23.9%	10.7%	22.0%	3.9%	16.5%	3.7%	1.2%	10.7%
H18	5.5%	23.4%	4.3%	20.3%	3.8%	23.2%	3.7%	1.3%	11.8%
H17	5.6%	28.8%	4.5%	16.9%	3.8%	22.3%	3.5%	1.3%	11.4%

*「ゲームやパソコン」の項目は、H18までは「ゲーム」のみでの調査である。

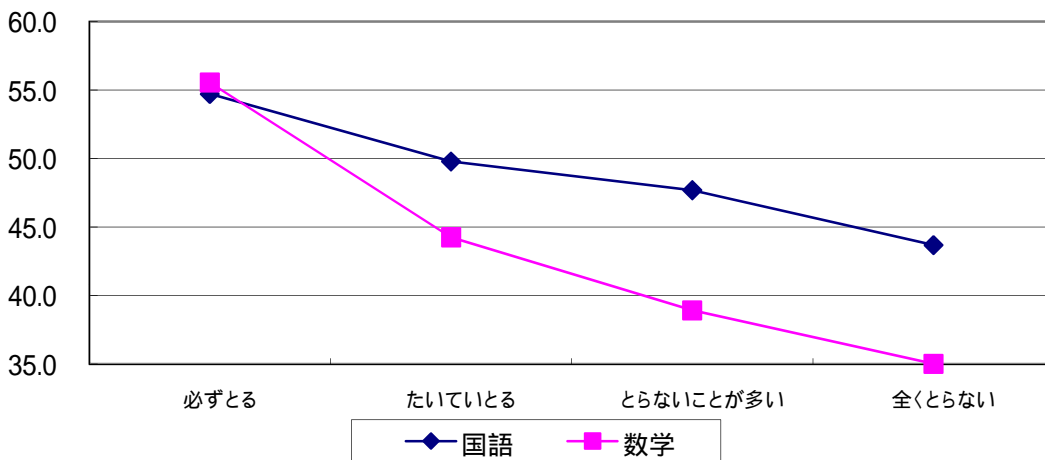
<分析> 1位が「テレビやビデオ」(24.3%)、3位「ゲームやパソコン」(19.7%)は共に増加、2位は「電話やメール」(19.7%)は2.3ポイント減少。

(9) 「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる生徒は増加、正答率と相関が高い

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H20	74.0%	14.5%	5.9%	4.9%
H19	71.6%	15.4%	6.2%	5.0%

<分析> 朝食を必ずとる生徒は、3.4ポイント増加で、とらない生徒よりも正答率が高い。



4 2学年意識調査の結果と分析状況

1年次・前年の2年生との比較

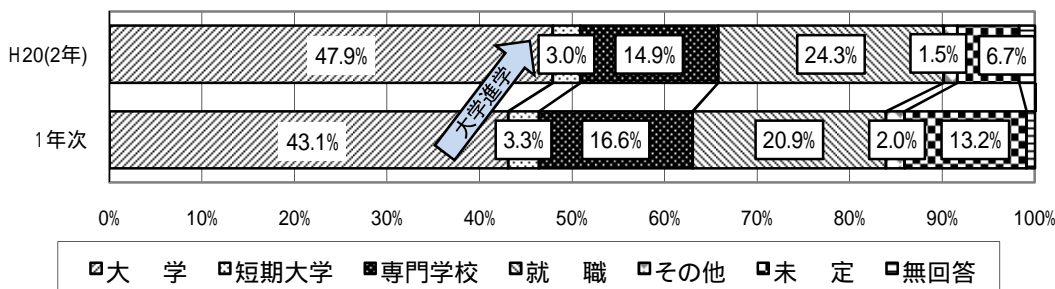
(1) 「現在最も強く希望している進路は」

進路希望が1年次より一層明確化

	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定
H20(2年)	47.9%	3.0%	14.9%	24.3%	1.5%	6.7%
1年次	43.1%	3.3%	16.6%	20.9%	2.0%	13.2%

<分析> 未定者が減少し、大学進学希望者は4.8ポイント、就職希望者は3.4ポイント増加。

図11 進路希望別の割合の推移



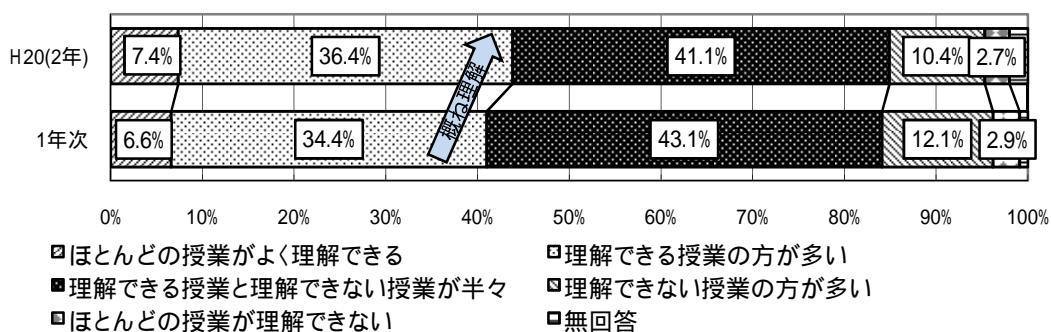
(2) 「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が1年次よりも、また前年よりも増加

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H20(2年)	7.4%	36.4%	41.1%	10.4%	2.7%
1年次	6.6%	34.4%	43.1%	12.1%	2.9%
前年2年	7.5%	34.0%	41.7%	12.7%	3.1%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が1年次より2.8ポイント増加。

図12 授業理解度の割合の推移



(3) 「平日の学習時間」

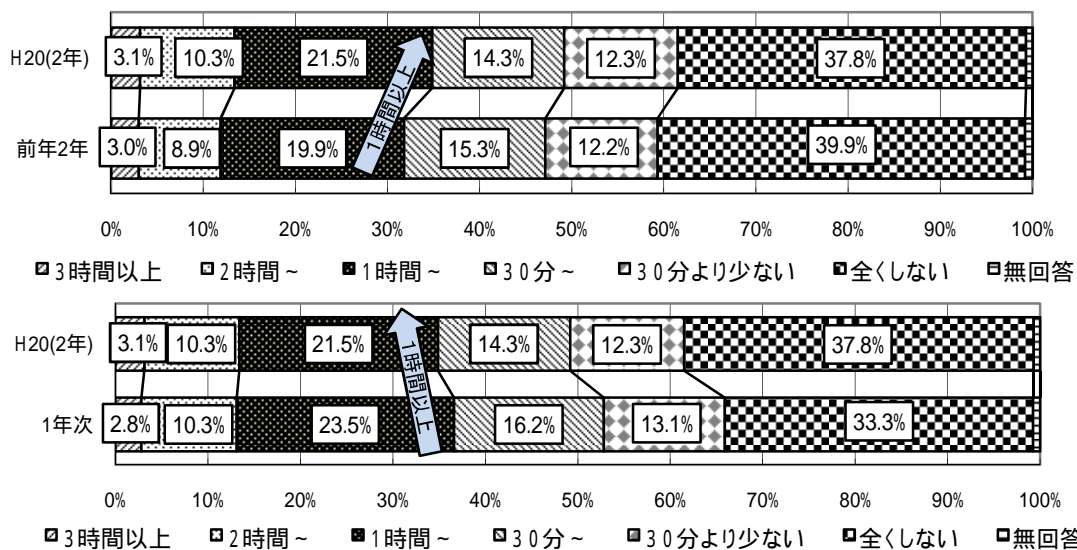
「全くしない」が前年よりも減少

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
H20(2年)	0.4%	0.4%	2.3%	10.3%	21.5%	14.3%	12.3%	37.8%
1年次	0.3%	0.4%	2.1%	10.3%	23.5%	16.2%	13.1%	33.3%
前年2年	0.4%	0.5%	2.1%	8.9%	19.9%	15.3%	12.2%	39.9%

<分析> 「全くしない」は1年次より4.5ポイント増加、「2時間以上」は固定化。前年よりは、「全くしない」が2.2ポイント減少し、「2時間以上」は1.5ポイント増加。

図13 家庭学習時間の割合の推移



(4) 「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒が増加傾向

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題があるとき	宿題・課題や考査前	塾・予備校がある時や家庭教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんどしない	その他
H20(2年)	15.2%	4.5%	5.4%	19.9%	4.3%	23.9%	1.6%	11.4%	11.8%	1.2%
1年次	14.1%	4.5%	6.8%	7.2%	4.4%	36.0%	1.5%	13.3%	10.5%	1.0%
前年2年	12.7%	4.0%	5.3%	11.0%	3.4%	35.8%	1.6%	11.3%	13.0%	1.2%

<分析> 「ほぼ毎日学習している」は1年次より1.1ポイント、前年2.5ポイント増加。

(5) 「学校での宿題・課題、小テストの割合」

1年次より宿題・課題、小テストが減少

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回くらい	ほとんど出でない
H20(2年)	11.1%	28.8%	40.1%	19.3%
1年次	14.9%	36.2%	31.1%	16.5%
前年2年	13.4%	29.1%	36.9%	19.5%

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回くらい	ほとんどない
H20(2年)	9.4%	35.2%	28.1%	26.6%
現1年	11.1%	31.1%	32.6%	24.3%

H20に新設した質問

<分析> 「週に毎日または2～3回」宿題・課題が出されるのは、1年次より11.2ポイント減少。

(6) 「家庭学習をする上で悩んでいること」 **「集中できない」が増加、「部活動との両立」「方法が分からない」は減少**

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H20(2年)	12.7%	28.6%	15.5%	16.1%	6.3%	4.5%	15.5%
1年次	13.7%	25.2%	14.5%	21.2%	5.9%	3.5%	15.0%
前年2年	13.2%	26.7%	15.5%	17.5%	6.2%	4.1%	15.6%

<分析> 「集中できない」が1年次より3.4ポイント増加。「部活動との両立」は5.1ポイント減少。

(7) 「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」 **「電話やメール」は減少、「ゲーム・パソコン」は増加傾向**

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやパソコン	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H20(2年)	5.7%	25.3%	12.2%	18.1%	3.8%	16.7%	3.7%	1.3%	12.1%
1年次	5.5%	23.9%	10.7%	22.0%	3.9%	16.5%	3.7%	1.2%	10.7%
前年2年	5.2%	26.3%	10.5%	19.1%	3.8%	16.5%	3.4%	1.1%	12.2%

<分析> 「電話やメール」が1年次より3.9ポイント減少。「ゲーム・パソコン」は1.5ポイント増加。

(8) 「学校に行く前に朝食をとるか」 **朝食をとる生徒は前年より増加、1年次で生活習慣が決まる**

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H20(2年)	71.9%	14.3%	6.8%	6.1%
1年次	71.6%	15.4%	6.2%	5.0%
前年2年	69.0%	15.8%	7.6%	6.0%

<分析> 朝食を必ずとる習慣は1年次のときと変わらないが、前年よりも増加。

学力向上に向けた今後の取組

【各学校】

各学校では、授業の質の向上と家庭学習の充実に向けた取組を行い、「確かな学力」の育成を目指す。

授業改善の推進

「授業が理解できる」と回答した生徒が増えてきており、各学校とも授業改善に努めてきた結果が表れている。ただし、「理解できる授業と理解できない授業が半分以上」と回答した生徒は1・2学年とも約50%を超えており、分かる授業実現に向け、一層授業改善を進める。

家庭学習の記録簿や宿題・小テストを利用した学習時間の確保

「ほぼ毎日勉強する」と答える生徒が1・2年とも増加しているが、勉強するのは「宿題・課題がある時や考査前」と答える生徒が多いことから、家庭学習の習慣付けのため、休日も含めて家庭学習の計画を立てることの指導や、適度な量と質の宿題を課すこと・授業において小テストを実施することなどを指導計画に取り入れる工夫をする。

学校と家庭の連携

家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから、学校と家庭が連携して家庭学習を推進する。



【教育委員会】

宮城県教育委員会では、高校生の学力向上に向けて各種事業に取り組み、各高校を支援する。

